

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090800220		
法人名	株式会社エルエス		
事業所名	グループホーム香椎下原		
所在地	福岡県福岡市東区下原2丁目15番31号		
自己評価作成日	平成27年2月10日	評価結果確定日	平成27年4月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

平成24年4月に開設して今年で4年目を迎えます。地域の方々と恒例の「秋祭り」や「消防訓練」にも参加して頂いたり地域の行事にも参加させていただくなど交流が増えてきています。又昨年の6月には敷地裏に住宅型有料老人ホーム「あっとほ〜む香椎下原」と訪問介護「ハッピーすまいる東」を開設し同敷地内の小規模多機能を加えた福祉ゾーンとして必要な方々に多機能的に対応ができるようになってきています。住宅街の中にあり、広い敷地内には果樹園や野菜畑等があり、四季折々季節を感じられ、入居者様方と収穫の喜びや散歩をしたりと有意義な日々を過ごさせていただいています。常に入居者様と一緒に生活を楽しみ生きがいのある日々が送れるように職員一同頑張っています。

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP:http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成27年3月3日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム香椎下原」は、福岡市内近郊に数カ所の入居施設、訪問介護、看護などを営む法人が開設した、小規模多機能と隣接の複合型2ユニットグループホームである。昨年より隣接地に住宅型も新設され、系列事業所と一体的に連携を取って、それぞれの生活スタイルにあったサービスが提供できる福祉ゾーンとして期待されている。開設から丸三年が経ち、地域との関わりも深まっており、毎年恒例の秋祭りの参加も年々増えて、今では100名を優に越して大盛況である。日頃も入居者それぞれのレベルに応じたレクを提供したり、対応を変えて、能力の低下を防いでいる。共同生活の場として大家族のようにアットホームな雰囲気でもたされ、入居者を中心に、日々したいことをしてもらっている。家族とも相互に協力して、皆が安心して過ごすことが出来るように努めており、今後も地域福祉の中心として益々の活躍が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目に付くところに掲示し、毎日の朝礼時に唱和を行い、その理念を共有して実践につなげるように努めている。	法人の「ハッピースマイル」の理念と事業所独自の理念があり、リビング、事務室、名札の裏にも記載され、いつも目につくようにしている。事業所には4つの理念があり、4つ目の「ゆっくりとした時間の流れを大切に～」はスタッフで話し合って作られた。事あるごとに理念にも触れ、職員も馴染みを持っている。理念を元に入居者も交えて一年の豊富も定めている。	今いる職員とも話し合っ、理念の振り返りや見直しを行ってはどうだろうか。また、地域との関連を踏まえたものの検討などがなされることにも期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	「秋祭り」や「消防訓練」等には、地域の方々にも参加をして頂いたり、地域の行事にも参加させていただいています。又入居者様と散歩や回覧板を回す時などに挨拶や立ち話などをして孤立をしないように交流を行っている。	地域の「水瓶祭り」や公民館の文化祭、どんと焼きなどには入居者も一緒に毎年参加している。事業所の秋祭りも公民館、町内会だよりに載せて地域に案内し、今では恒例行事になりボランティアもきて盛況である。町内会にも加入し、地域清掃にも一緒に参加している。ボランティアの来訪も多く、月1回以上は何がしかの訪問を受けている。	地域への情報発信や、広域的な関わりを深めていくために、協力した介護勉強会や、キャラバンメイト、サポーター要請活動などの取組も検討されてはどうだろうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて入居者様の日常の様子や事故報告等をお話しさせていただき、認知症の人の理解や支援の方法をお話しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し福岡市の職員やいきいきセンター職員、地域代表の方々、入居者様やご家族をお呼びして近況報告を行い、質疑応答の中で意見交換を行うことでサービスの向上につながっている。	隣接の小規模多機能と合同で開催し、地域からの出席も多く入居者が参加することもあった。家族には口頭で開催案内しているが、参加は主に決まった方になっている。直近から議事録は全体に郵送して報告するようにし、玄関でも閲覧用に設置している。3ヶ月ごとに発行する「香椎下原だより」を使っての行事報告や、質問情報交換などがなされ、活発に意見が出されている。	時には小規模多機能とは分けて単独開催することで、家族の参加をやすくしたり、グループホームとしての詳細なテーマをもった会議を検討されてはどうだろうか。また、行事との同日開催などで日頃の取組を観てもらうのもよいかもしいない。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外でも入居者様に対してのサービス等の疑問点や事業所としての疑問点など積極的に連絡をして解決策に繋げています。	市の担当とは介護保険に関してわからないことなどあればすぐに連絡して相談している。最近も他科受診の際のタクシー利用に関して相談してアドバイスを頂いた。担当とも運営推進会議で顔なじみになっており、日頃から相談もしやすい。空き情報などは地域包括に伝えて紹介を頂くこともあった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての外部研修参加と内部研修においても、全職員に言葉や行動制限の拘束について話合っており、ベッド柵や玄関の施錠についても、回避できるように話し合いを行っている。	玄関施錠はしておらず、夜間のみで、1,2階の行き来も自由に出来る。昨年離設があったがすぐに見つかり、その後は見守りの対応を強化した。玄関センサーはあるが、身体拘束の事例はなく、毎年外部研修に参加して内部での伝達を行っている。スピーチロックにつながる表現などはその都度管理者から注意し、日頃から拘束をしないで済む方法を話し合って検討している。	万が一の離設に備えて、地域の徘徊SOSやネットワークの情報収集をしたり、地域の見守りなどの支援を検討されてはどうだろうか。

H26自己・外部評価表(GH香椎下原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や内部研修での話し合いに加えて日々の業務の中で職員同士の声掛けにて知識の共有に努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や内部研修の中で学び又実際に後見制度を利用されている入居者様がいる事で身近に感じており、必要な入居者様に対しても支援できるように情報を収集したりしている。	成年後見制度の利用が1名おり、今支援を検討しているケースもある。入居後に家族の協力の下利用につながり、必要時には専門機関とも相談して対応に備えている。毎年定期的に外部研修に参加し、資料閲覧、内部での伝達を行う。職員も一般的な制度の理解を持っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定等の際は十分な説明を行い理解・納得をして頂くように努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各階の下駄箱に意見箱を設置しています。又直接入居者様やご家族から聞けるような関係が作れるように努めています。	意見箱はあるが、活用されたことはなく、面会時などに家族から直接意見を頂くことが多い。来訪の際は時間をとって管理者が話を聞いており、以前は苦情を頂くこともあったが、今はなく、要望もすぐに話し合っただけで対応につなげている。3ヶ月毎におたよりで報告する他、面会の少ない方も月に1回程度は電話などで連絡をとっている。	法人からのアンケート調査を計画されているとのこととで実現に期待したい。また、家族参加の運営推進会議や、家族会的な集まりとして、昼食会や、懇親会など、横のつながりにもつながるような取組みが検討されることも望まれる。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全職員会議には、社長も同席し質疑応答の時間を設け職員の意見や提案又要望等の話し合いができ、社長が同席していることから即決する事もあり、その場で解決しない時は後日管理者を通して職員に連絡が来ている。	毎月の全職員会議ではパート職員や休みの職員を含めて、全職員が参加している。最近でも遅出の勤怠時間に関する提案があり、その場で社長の許可のもと変更にもつながった。会議以外でも職員同士で話し合い、会議にあげている。日頃も社長や管理者に話しもしやすく、気軽に相談できる環境が作られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々の仕事に対する意欲や頑張りや管理者からの情報の他頻りに現場に立ち寄り職員と気軽に話したりすることが出来る環境を作るように努力をしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたっては性別、年齢等を理由に採用対象からは排除しておらず、70歳を定年に行っていることから働けるまで、そして趣味や社会参加が出来るような勤務希望を聞き入れており、適材適所の役割分担をしている。又研修等にも参加しスキルアップができるように配慮している。	50～60歳代の男女の職員がバランスよく配置され、職員同士のコミュニケーションもよくとられている。仕事をしていく中での能力や適性を見極め、担当係りなどの役割分担につなげている。外部研修の案内もあり、希望すれば積極的に参加ができ、スキルアップの機会をもっている。勤務希望などもお互いに協力して融通をきかせながら働きやすい環境を作っており、職員の定着率もあがってきている。	

H26自己・外部評価表(GH香椎下原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修や内部研修又日々の業務の中において、その人らしく生活できるためにはと、問いかけたり、たとえ認知症になっても私たちにとって、人生の大先輩であることを認識するように話している。	12月にも市の「人権について考える」研修に参加し、資料回覧、伝達研修を内部でも行った。毎年計画立てて研修に参加し、職員も偏らないように参加してもらっている。内部でも自分で資料を作ったの研修を行い、日ごろも認知症高齢者の理解を進めて、職員の気になる言葉かけなもその時直ぐに注意しあっている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度初めに外部研修、内部研修の予定表を作成し、全職員がそれぞれの外部研修に参加し、内部研修にて発表を行うことで再確認ができ、意義のある研修になるようなシステムを取っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に入会しており勉強会や外部研修等に参加し、同業者と交流する機会を設けている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始前に必ず面談を行い、ご本人より希望や不安についてお聞きしているが、家族や居宅支援、いきいきセンター等からの情報が先行していることが多く、入居後早期に本人との信頼関係をもつ努力をし、要望等を受け止めるようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前に必ず面談を行い、ホーム見学時、本人面談時又入居申込時に相談、要望等に耳を傾けて不安等の解消が出来るような関係作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時今何が必要か本人、家族と話し合いをし、訪問診療、デイケア、訪問歯科、訪問マッサージ利用を含めたカンファを行いケアプランを作成し、サービスの導入を開始している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に新聞やニュースの話題など話したり、掃除や洗濯物たたみ、台所仕事など入居者様に合った仕事を共に行い、お互いに支え合える関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	他科受診や外出など無理にならない範囲でお願いしたり、入居者が家族と一緒に支えていく関係を築いていけるようにしている。		

H26自己・外部評価表(GH香椎下原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から利用していたデイケアの利用や入居前からの友人の面会等を受け入れたりと今までの関係を築いていけるようにしている。	以前からのデイケアは送迎に来てもらい、つながりの継続につながっている。近隣の友人が温泉や外食に連れだしてくれたり、回数は減ってきたが家族に協力してもらって外出や外泊をする方もいる。県外の家族には職員から手紙を出してやりとりをしたり、個別ケアによって遠方までお連れすることもあった。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話しが苦手な入居者と話し上手な入居者を同テーブルにしたり、入居者同士の関わりが出来るように職員が間に入ったりして孤立を防ぎ支え合えるような関係ができるように支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用解約後も入院中の方などご家族に連絡して近況をお聞きしたり、お見舞いに伺ったりして関係を断ち切らないように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から希望や意向等伺ったり職員からの意見等を参考にし、本人様の気持ちに沿った支援を提供している。	以前はシステム上の様式でアセスメントしていたが、昨年からの別様式に変えて、より詳細な記録がとれるようになった。変化があった際や、3ヶ月～半年での見直しも行き、その際のカンファレンスによって現場からの意見を引き出している。入居間もない時期などは随時見直し、意思疎通の難しい方には声掛けを積極的に行い表情の変化などから意向を読み取るよう努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や家族、相談者からの情報を提供して頂き、職員全体で把握できるように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活、心身状況を介護記録や連絡ノートに残し毎日の申し送りやミーティングの際に職員間での情報共有をして、現状の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時はカンファや往診時にDrからのアドバイス、本人や家族からの意見等を反映して、現状に即した介護計画を作成している。	一人が2人を受け持つ担当制になっており、カンファレンスの際に報告、意見提案も行う。プランの見直しの際には往診時の医師の意見や面会時の家族の意見も反映させている。ケアプランに基づいて、毎日のモニタリングチェックを行い、目標を全体で共有する他、日々の体調管理やケアの内容を記載し、記録を色分けすることで項目事の理解を進めている。	日々のプラン評価から、月間のモニタリングやプラン目標の見直しにつなぎ、担当者のスキルアップ、即時的なプラン変更を活かしてはどうだろうか。また、担当者会議やプランに医師や家族からの意見や照会内容を記載することで、チームプランの活性化につながることを期待される。

H26自己・外部評価表(GH香椎下原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、心身の状況は介護記録にケアの実践、結果は毎日のモニタリングチェック表に記載を行い、連絡ノートを活用し情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況や希望で併設の住宅型や小規模多機能からの入居や逆にホームから、住宅型に移られたりすることもあり、又家族の代わりに病院受診や買い物などの支援も行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館との交流、イベントのボランティアの受け入れ、入居者と地域を交えた消防訓練を行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どの入居者はホームの2か所の協力医の往診を受けておられるが、かかりつけ医との関係も継続できるように、定期受診の際は職員が付添を行っている。	入居時に家族の意向を聞いているが、殆どの利用者は提携医を希望する。認知症専門の内科医も含めて2か所の提携医が2週間に1回往診。薬の変更など医師の所見は回覧したり、申し送り時に共有し合っている。難病の利用者の通院はタクシーを利用し、看護師か管理者が同行している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師2名を中心に24時間体制で医療面に関しては主治医や関係医療機関との連携を図っており、介護職への必要な助言や相談が出来ている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来るだけ協力医療機関に入院して頂くことで病院関係者との情報交換がしやすく、管理者とソーシャルワーカーと常に連絡を行い、出来るだけ早く退院していただけるように努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在のところ対象者はいないが看取りに関しては(出来る事、出来ないこと)入居者、家族と話し合いを行い、主治医や家族と協力し本人の状態によって、看取りを受け入れるような体制作りをしている。	入居時に看取り指針に添って家族に説明し、了承を得ている。看取りが必要になった時には再度説明し同意書を貰うことにしている。現在は対象者はいないが、職員はターミナルの外部研修を受けている。必要時は看護師が夜間の体制をとる事も確認し、提携医や家族との連携をとる事も含めて、看取りに対応する体制の整備を行っている。	

H26自己・外部評価表(GH香椎下原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員に、普通救命の講習を繰返し受けて内部研修としてもAEDの取り扱いの講習を行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間、夜間想定で年2回消防訓練を実施している。1回は消防署が立ち合いを行い、2回とも入居者、家族、地域住民の方にも参加を依頼して参加に至っている。	年に2回、昼間、夜間対応の防災訓練を実施。1回は消防署が立ち会っている。町内会便りに訓練の日程を掲載して貰い、町内会長や近隣住民、利用者の家族等が参加している。地域の防災訓練は実施されていない。スプリンクラー、AED、も整備し、飲料水などの備蓄の準備を進めている。職員には一斉メールで直ぐに連絡できるようになっている。	災害時備蓄の準備を更に進められるとともに、一斉メールの町内会長の利用について、運営推進会議等で提起して同意を得られるよう努力されてはどうだろうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	外部研修の参加や内部研修を定期的に行い、常に職員に意識づけをして入居者に対しプライバシーを損ねないような、やさしい言葉かけや対応ができるように、心がけている。特にトイレ誘導時の声掛けは気をつけている。	利用者のプライバシーを損なわないような言葉掛けに心がけ、言葉遣いが気になる職員には外部研修で身につけて貰っている。外部研修の後は内部での伝達研修にも積極的に取り組んでいる。トイレや入浴介助は本人の希望も取り入れながら同性介助を心掛けている。写真の利用は入居時に書面で同意を貰っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その日の体調や気分に合わせて職員からの働きかけを行い、日々の過ごし方が自己決定できるように働きかけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは大体決まっているが当ホームの理念「個人個人に合わせた介護を実践します」にある様に体調や気分に合わせて、一人一人のペースを大切に、無理強いをせずに、希望に沿った支援に努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容が月1回ある。居室には鏡があり、鏡の前で整髪、髭剃り、化粧をされたりしている。又外出時は外出着を職員と一緒に選んでいただいている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	パン食を希望される方のために、週1回はパン食にしたり、月1回は外食レクや時々近くのケーキ屋にコーヒータイムに出かけたりしている。配膳は職員が行っているが、テーブル拭き、下膳は入居者が率先して、して下さっている。	当初は職員が作っていたが、利用者の介助を優先し、今はご飯と汁物だけを作り、惣菜は業者のレトルトを温めて提供している。利用者は下膳などを手伝っている。季節の行事食やシチューなどを利用者と一緒に作ったり、パン食も取り入れており、月1回の外食レクでは、刺身などの定食が喜ばれている。個別ケアでケーキ屋にコーヒータイムに出かけることもある。	

H26自己・外部評価表(GH香椎下原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量はチェック表で確認し、必要量は確保できるようにしている。食事は外注でカロリー計算がされており、その方に合わせた量、形態で職員が提供を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを職員付き添い又は一部介助にて行い定期的訪問歯科による口腔状態を診て頂き、口腔ケアと磨き方の指導や治療が行えている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し一人一人の排泄パターンを掴み、なるべくオムツに頼らなくて良いように職員全員で自立にむけた支援を行っている。	排泄チェック表で各自のパターンを把握し、2~4時間毎にトイレ誘導を行っている。リハパンの人が昼間は布パンツとパットになったり失敗が減ってくるなど自立に向けた取り組みも進んでいる。夜間もできるだけトイレ誘導を行い、必要な人にはポータブルを使用して貰っている。変更の把握は、朝の申し送り時や、必要に応じてその都度話し合うなどして共有している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のコップ1杯の水を飲んで頂いたり、運動や腹部マッサージをしたりと予防に取り組んでいるが薬に頼らないといけない入居者はいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日お風呂は沸かしており、週3回は入浴できるようにしている。予定表はあるが本人の拒否がある時は無理強いせず、予定日でも入浴を希望されたり、汚染があったとき等は入浴をさせていただいている。	週3回、午前・午後に入浴して貰っている。希望があれば毎日の対応も可能だが、希望者はいない。むしろ拒まれる方も多いが、声掛けを工夫したり介助者を代えたりして、できるだけ週3回は入浴できるように支援している。入浴剤の利用や季節湯で柚子湯を提供するなど、入浴を楽しんで貰えるよう心がけている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	決まった消灯時間はないが、音や照明を少しずつ落としながら安眠できるように支援している。昼間は居室でテレビを観たり、ベッドに休んだりして過ごされる時もある。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に薬表をファイルし、薬の変更時は副作用等を全職員に申し送り時、連絡ノート記入し、伝達は徹底している。服薬は職員が最後まで飲み込みの確認を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自出来る事は手伝っていただき外出や買い物等で気分転換が図れるように支援している。		

H26自己・外部評価表(GH香椎下原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調、天気の場合によって外出の予定日でもなくてもドライブや近くのケーキ屋にコーヒータムに出かけたり、テラスにておやつタイムをしている。又今年には県外に里帰りやつくし取り、潮干狩りを計画している。	気候の良い時は車椅子の人も含めて毎日、施設周辺を散歩している。冬場の暖かい日にはベランダのテラスでの外気浴も気軽に行える。月に1回は外出レクを企画し、志賀島のドライブや季節の花見に出かけ、桜の季節は2ユニット合同で花見に出かけている。個別ケアで衣類などの買い物にお連れすることもある。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの入居者はレベル的に自己管理は難しく、ホームにて管理しているが数人の方は家族同意の上で自己管理していただいている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎは行っている。来た手紙は読んで差し上げている。ご家族の希望で携帯電話を居室へ置かれ電話されたりしている入居者もおられる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの窓が広く全体が明るくカーテンにより光や温度の調整している。童謡やクラシック、懐メロなどの音楽を耳障りにならない程度流している。季節に応じた壁面工作やお花、雛壇や武者人形を飾って季節感を取り入れる工夫をしている。	施設全体は木目のフローリング。リビングは両面に大きな窓があり、春の光がフロアに暖かく差し込んでいた。段飾りのお雛様が春の訪れを感じさせている。5月には武者人形が飾られる。冬場はベランダのテラスで日光浴をしながらコーヒータムを楽しみ、お洒落な自時間も過ごしている。フロアには心地よい程度の音量で童謡や懐メロが流れていて、居心地の良い空間作りがなされていた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファに腰かけて利用者同士談話されたり、玄関や廊下のソファに腰かけられたりして思い思いに過ごされている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者本人の状態を見ながら家族に相談して可能な範囲で危険がない馴染みの家具や布団、家族の写真や小物など大切なものを持ち込んでいただくことで違和感なく居心地良く過ごしていただけるように工夫している。	貸し出しはベッドのみ、布団は自宅からの持ち込みで週1回の包布交換は施設で実施する。希望者は畳を敷いて休む事も自由に出来る。仏壇や、家族の写真、時計やカレンダー、加湿器など、自分の思いの物を自由に持ち込み、自宅の延長線での暮らしが営めるように居心地の良い居室づくりの工夫がなされていた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ドアには本人の名前をトイレには(便所)風呂場には(温泉マーク♨)を掲示している。出来る限り自立した生活が送れるようにしている。		